進路通信

No.1

ー平成２７年５月１３日ー

貝塚市立第一中学校　進路通信
〒597-0071 貝塚市加神１丁目５番１号
TEL 072-422-1527　FAX 072-422-1271

生徒と保護者のための進路情報です。保護者の方も必ずご覧ください。

☆どうしたら、学力がつくのか☆

勉強というのは、本当におもしろいものです。

多くの人は、「そんなんウソや」「勉強なんておもしろいはずない」というかもしれません。もちろんわからなければおもしろくありません。わかるようになればおもしろいんです。

他の例をあげてみましょう。たとえば、「サッカーがおもしろい」と思える人は、サッカーが上手な人です。サッカーが苦手な人は、サッカーがおもしろいなんて思いません。でも、練習をつみ、だんだんうまくなり、ゴールを決めることができればどうでしょう。サッカーが楽しくなり、「もっとうまくなりたい」「また試合に出たい」と思い、練習をもっとやるようになるでしょう。勉強もそれと同じです。分かるきっかけ、とっかかりをつくるまでに、多少しんぼうが必要です。根気がいります。勉強はわかったらおもしろい。人間は自分の知らないことはもっと知りたい、という気持ちでいっぱいの動物です。そして、知ったらおもしろいし、楽しいという好奇心にあふれた生き物なのです。

では、なぜ、勉強がきらいになるのか。それは、限られた時間に勉強することが多すぎるからです。自分のペースで勉強ができればいいのですが、残念ながら中学校で勉強しなければならない内容が決まっていて、必ず３年間ですべてを勉強しなければならないのです。いったんわからなくなってくると、だんだんやる気がなくなり、どんどんわからなくなる一方です。

それでは、どうしたらいいのか。一つは勉強のやり方です。学力をつける方法はいろいろあります。時間は限られています。やり方がわかれば、なんとかなります。でも勉強の仕方がわからないから、おもしろくなくなってきた。ここは、がまん。自分がわからなくなったところに戻る(数学・英語など)、または、今勉強しているところからまずやってみる(社会・理科など)です。どちらにしろ、自分のできそうなことでかまいません。まず、勉強を始めることです。自分なりにいろいろ工夫して勉強のやり方を見つけてほしいと思います。もう一つはやる気の問題。がんばろうという気持ちの問題です。幸い、新学年になって、ちょっとがんばらなあかんという気持ちを持っている人がほとんどです。その気持ちを大切にして、あきらめないでがんばってほしいのです。最初からあきらめてしまってはどうにもなりません。

☆学年　最初の定期テスト☆

新しい学年になっての最初のテスト「中間テスト」が２０日、２１日あります。

まず、健康管理は万全に！

テスト当日は、ベスト・コンディションで登校・受験できるよう、日頃から健康管理に努めましょう。体調不良では学習に身が入りませんし、テストでも十分に力を発揮することができません。睡眠時間は最低でも５時間、できれば６時間は必要です。睡眠をとることで学習したことが定着するとも言われています。

授業が大切！

試験問題の材料は授業の中にあります。日頃から授業で先生が説明することをていねいに聞き、どこが大切なのか押さえておきましょう。

計画的に学習しよう！

準備は１０日から１週間前には始めましょう。ドリルを先に、いわゆる「暗記物」は後にするのがおすすめです。計画表を活用し、①各教科の試験範囲（学習すべき内容）を確認し、②それを学習するのに必要な時間を生活の中に確保しましょう。その日に計画通りできなかった分については、翌日以降に組み込んで必ず学習しましょう。

提出は期限を守って必ず行うようにしましょう。

☆仕事と学業、忙しいけど充実☆

インタビュー　俳優　伊藤淳史さん(31)

「こんな先生に出会えていたなら、勉強が好きになれたのに」－。きっとだれもがそう思うはず。映画「ビリギャル」で演じた塾講師の坪田先生は、そんな人物だ。

実話をもとに、ベストセラーとなった『学年ビリのギャルが１年で偏差値を４０上げて慶應大学に現役合格した話』が原作。著者の坪田氏は、「聖徳太子」が読めない、東西南北がわからない……そんな落ちこぼれ高校生さやかを常にポジティブな言葉で励まし、やる気を引き出し、難関大合格へと導いていく。

自身は大学受験にあたり、家庭教師とともに勉強した。親身になって勉強を教えてくれた先生の存在は忘れられない。でも、勉強は好きになれなかった。「好きで勉強するのと、嫌いだけど勉強するのでは、成果もちがったと思う。好きでいられたならもっと余裕を持って受験にのぞめたかもしれないのにな」

小学校入学前からすでに、子役として芸能活動を始めていた。小学校から始めたサッカーは、本気でサッカー選手を目指したほど。仕事や部活と、学業の両立はさぞかし大変そうだが、「テストと撮影の時期が重なることもあったけど、ぐだぐだやるよりも集中できたので、そういう時の方がテストの成績がよかった」と笑う。振り返ってみると、忙しくはあったが、充実した毎日だった。「ずっとがんばり続けるって大変だけど、がんばりどころに対する力の使い方はうまくできていたのかも」

高校、大学……と進むごとに新しい出会いがある。それぞれのステージで、友人に恵まれてきたからこそ、あえて挙げるのが「狭まっていく良さ」。少なくとも学力面で同じレベルの人が集まる場では、考え方や人間性がより近い仲間と出会う確率は高くなる。信頼できる人との出会いが、人生を楽しく彩るのは、坪田先生とさやかだけではないだろう。